

「新臨床外科学」第2版

中村 紀夫
阿部 令彦 監修
堀 原一

森岡 恭彦
小山 研二
杉町 圭蔵 編集
中條 俊夫
鰐淵 康彦
田島 知郎

近畿大学教授

安 富 正 幸

「新臨床外科学」(第2版)が上梓された。第1版からみると大幅な変更が加えられている。最近の医学や医療は著しい進歩をとげた。その結果、医学部学生に対する卒前教育や卒後教育の中に盛り込むことが要求される事項は大幅に増加した。教科書でも3年を過ぎればもう内容が古くなると言われるほどである。ところが基本として教えなければならぬ事項は少しも変わらないのであるから、6年間の医学部教育の限られた時間内にどこまで教えるか、細分化された内容を断片的に教えるのではなく、関連する他科や他領域とを

どのように組み立てるのか、ということは医学教育にとって最大の課題である。

もちろん外科教育もこの例にもれないばかりでなく、医学部在籍中の高学年の2年間ほどの間に必須の知識や技術を習得させ、臨床研修と有機的に結びつけるにはどうしたらよいか。これが大きなテーマである。

本書は、外科学全般にわたり、各領域の専門家により新しい知見で、しかも必須の項目が簡明に記載されている。特に総論では外科侵襲と生体反応、ショック、創傷治癒、外科と免疫、外科と栄養、救命救急処

置、老人外科の特徴など新しい知見が盛り込まれている。これらの基礎的な知識は医師国家試験における臨床実地問題の解決力を養うであろうし、外科領域ばかりでなく他科との関連事項の理解力を助けよう。

各論では頭頸部から胸部、腹部、骨盤内臓器と臓器別に記載され、解剖・生理学の基本的知識に新しい診断法と画像診断、免疫学的血清診断などが各所に盛り込まれている。このような画像の理解には鮮明さが要求されるため、とかく本のボリュームが厚くなりやすい。本書は簡明なシェーマと写真により理解を助けており、教科書として、また実地臨床の場で座右に置いて用いるために handy であることも兼ね備えている。また、本書は国家試験のためのガイドラインと対比しても内容は十分であり簡潔で読みやすい。

本書に記載された内容や写真、図表の豊富さと表現に工夫がみられる。本書は卒前および卒後研修のための教科書として、また専門外の外科学領域の知識をつけるための座右の書として好適である。

B5判 1,020頁 図425 写真330
1989 定価14,000(税抜き) 〒300

—医学書院 刊